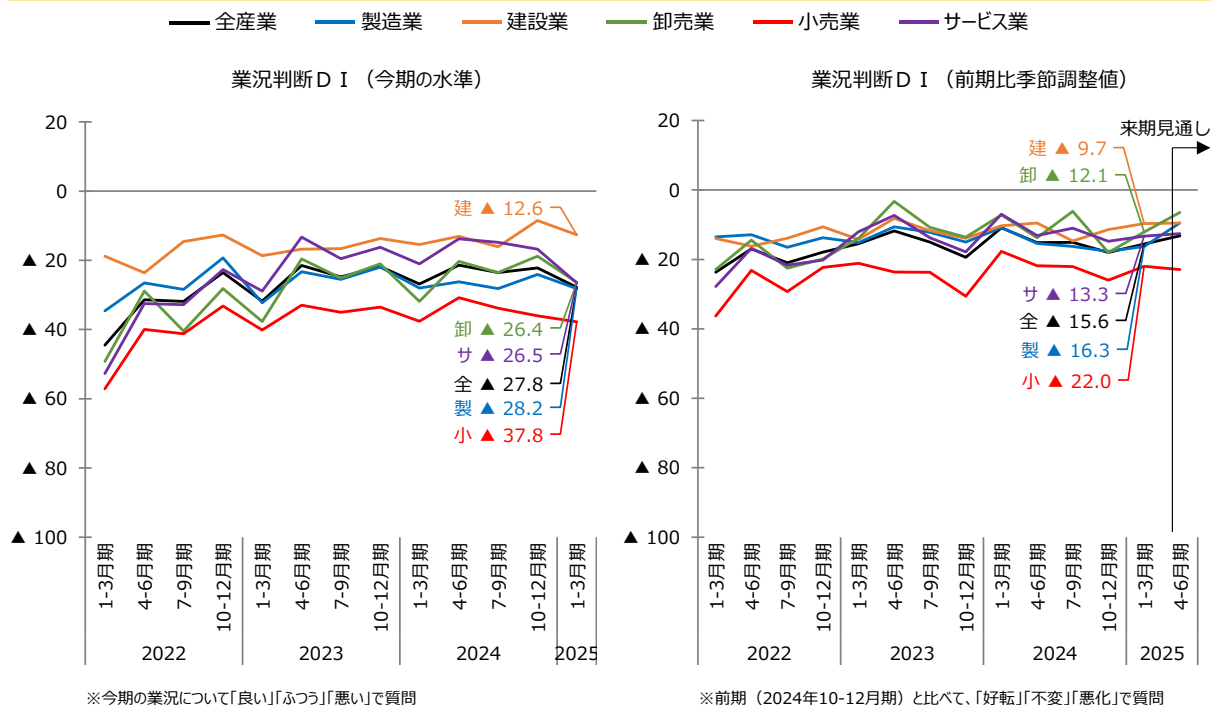


第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 近畿



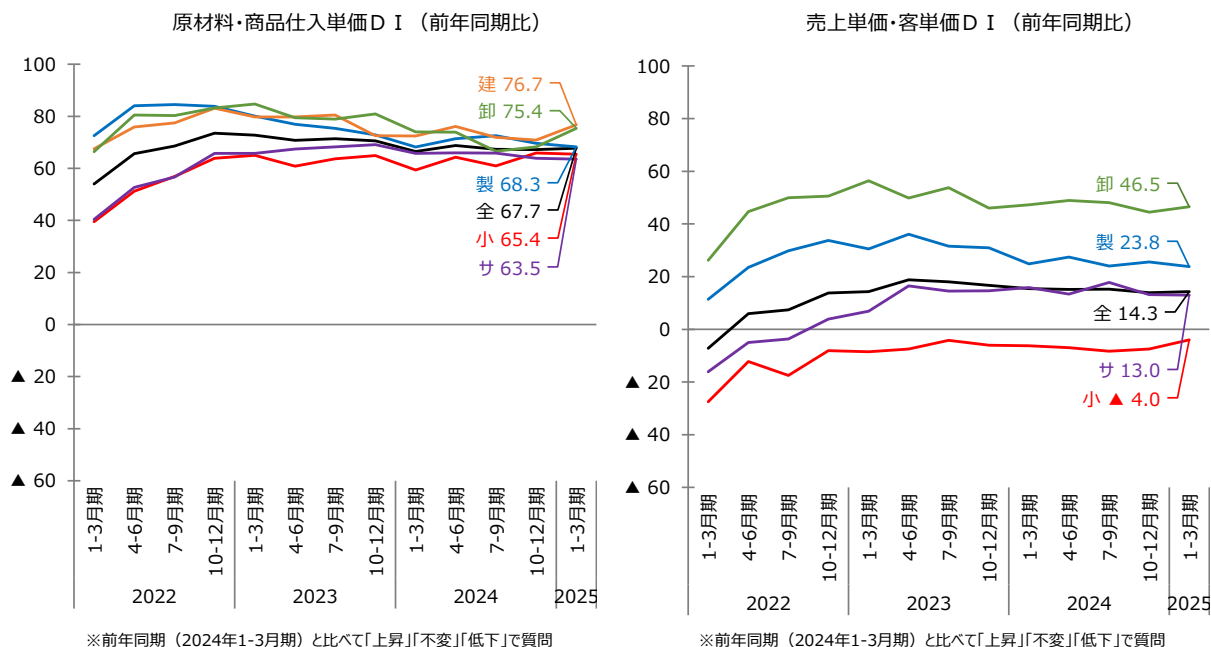
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2024年10-12月期）より5.6ポイント減の▲27.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の67.7と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、製造業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の14.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,758 有効回答企業数：17,654 有効回答率：94.1% うち、近畿：2,402企業

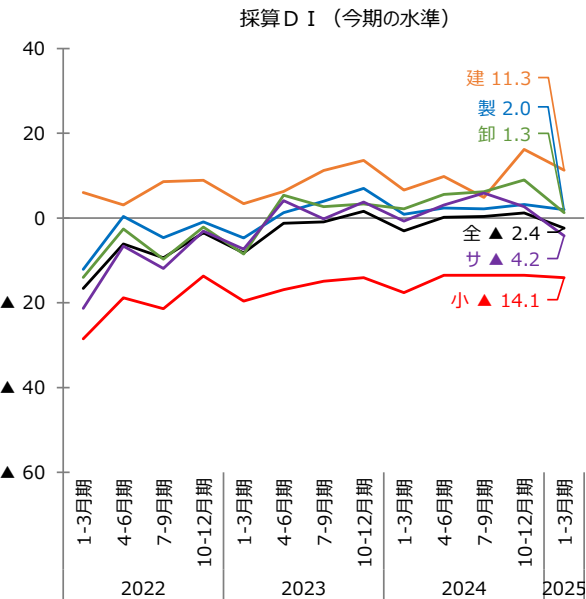
※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第179回 中小企業景況調査（2025年1-3月期） 近畿



3. 採算

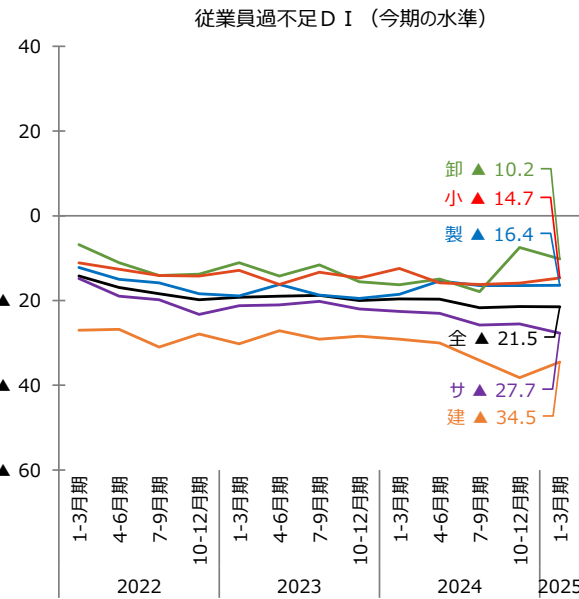
採算DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の▲2.4と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲21.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	主力原材料の銅をはじめ、調達価格が上昇しており、利益を圧迫している。さらに金利も上昇しており、一刻も早く売値に転嫁しなければならぬと思うようにはいかない。	製造業 銅・同合金鋳物 製造業（ダイカストを除く）
	仕入単価と職人の手間代の上昇が続いており、問い合わせは通常通りであるものの工事の遂行が厳しい状況になっています。新築需要の停滞も続いており、工期の確保が厳しい状態はしばらく継続しそうです。	建設業 一般土木建築 工事業
	小口（多数）の納入先の小売店に客がますます減少。主力の眼鏡フレームの受注が減少。仕入単価が上昇し続け、販売先に転嫁すると受注が減少。発注後の納期が長く、欠品が長期になりやすく、売り上げが立たない。	卸売業 計量器・理化学機 械器具・光学機 械器具等卸売業
	日本人の購買意欲の低下を感じます。インバウンドの影響力の強い地域に店舗を構えているので好調ですが、インバウンドが減った時の怖さを感じます。	小売業 各種食品小 売業
	人件費以外の経費や仕入単価の上昇により現状のサービスや仕出し、宴会・宿泊料金など値段の現状維持が難しい。値段の変更も難しいが内容の変更も難しく、低価格の仕事が出来なくなってきた。	サービス業 簡易宿所
見通し	一年間を通じて国内海外ともに需要の停滞感及び原材料等のコストアップにより製品の値上げを三年続けて上げたことに要因もあるのではないか、ようやく来期あたりから少し動きが出て来る模様。	製造業 農業用機械製 造業（農業用 器具を除く）
	官公需要の停滞、特に年度繰越工事発注が少なくなっている。その他、設備や機械の老朽化が進んでおり更新が必要だが、設備投資が思うようにできない状況である。	建設業 土木工事業 （別掲を除く）
	今期に関しては自社も含め、在庫調整が続いており需要に力強さがなかったが、来期以降は万博やインバウンド需要等の好影響もあり徐々に業況は上向くと考えている。人件費・金利上昇によるコスト増には注視したい。	卸売業 電気機械器具卸売業 （家庭用電気機械器 具を除く）
	物価高はとどまるところを知らず、固定費の値上がりもボディーローのように響いてきている。設備投資を行うにも運転資金の捻出に必死で、そこまで余裕がない。次期は借入れ必須。過少在庫にも限界がある。	小売業 酒小売業
	物価高騰により更に消費者の低価格志向が進み顧客の利用回数が減ってきている。また地域的に高齢化が進み人口の減少が止まらなく、見通しは暗い。	サービス業 理容業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。